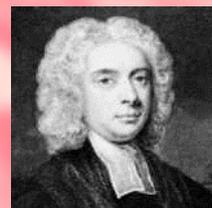


第 19 回バトラー研究会のお知らせ



今回の研究会は 2 部構成で行います。第 1 部では、森岡邦泰氏（大阪商業大）による「マルサスの初版『人口論』（1798 年）の弁神論を中心に考察する」と題する報告を受けます。このテーマは現代に繋がる問題である一方で、我が国のマルサス（1866-1834）研究全般、特に経済思想史研究では、重要でありながら、これまで必ずしも十分に検討されて来なかった宗教的背景についてが主題です。

次に、第 2 部では、バトラー研究会メンバーによる非公開での、①Springer での英文共同論文集への提出原稿の各執筆者から概要と狙いの報告とそれについての討論、②今後の研究会スケジュール等の確認を行います。

第 1 部は公開致しますので、当該の問題についてご関心のある方々の参加を歓迎いたします。

日時：2023 年 3 月 12 日（日）13:30-18:00

方法：Zoom 会議により開催（ホスト：松本哲人氏・松山大・研究分担者）

・トピック（会議名）：第 19 回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布。

★研究会メンバー以外にも公開する第 1 部への参加希望の方は、以下の URL にある「参加登録フォーム」に記入して **開催日前日（2023 年 3 月 11 日・土）までに送信** してください。

<https://forms.gle/tW5QjZVmoZvS98AMA>

第 1 部：報告と討論

森岡 邦泰氏（大阪商業大）「マルサスの初版『人口論』（1798 年）の弁神論を中心に考察する」
司会 矢嶋 直規氏（国際基督教大学）

フランス革命の衝撃に対し保守主義のよりどころとなった『人口論』は、最初に人間が今後無限の進歩を開始するのか否かという問題を設定する。そして進歩を唱えるゴドウィン、コンドルセに対し、人口原理でそれと反論する。人口原理が、不幸・悪徳を必要とすることが、牧師補でもあったマルサスに弁神論を書かせることになる。この世に悪が存在することを説明する弁神論はアウグスティヌス以来の歴史を持ち、そこにおけるマルサスの位置づけ、また 18 世紀から顕著になる進歩史観に対する『人口論』の位置づけなどについて考える。

第 2 部：各章原稿執筆者による概要と狙いについての報告と討論ほか
司会 大久保 正健氏（元杉野服飾大学）

<予定スケジュール>

13:30-15:30 第 1 部 公開研究会はここで終了

15:30-15:40 休憩

15:40-18:00 第 2 部

（文責：有江）